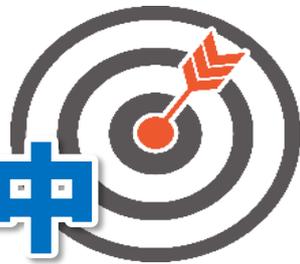


2026  
ズバリ! 的中



日本史

# 名古屋大学

1945年に発生した東海地方での地震の被害情報が大きく報道されず隠された理由を考察させる点で的中。

## 入試問題

前期日程 文学部・情報学部(人間・社会情報学科)  
P-15 大問V 問4

### 日本史 問題V

近世から近現代の災害に関する次の文章を読んで、以下の問いに答えよ。なお、A～Fは年代順に並んでいるとは限らない。史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。

D アジア・太平洋戦争末期に発生したこの地震により、東海地方を中心に強い揺れに見舞われた。その37日後にも愛知県東部で三河地震が発生し、二つの地震の死者は3000人を超えた。しかし、被害に関する報道は厳しく統制された。

問4 Dについて、地震の被害情報が大きく報道されず、隠されたのはなぜだと思うか。戦時下の手記である次の史料を参考にしながら、考えられるところを述べよ。

労務、資材の不足に加えて、敵機襲撃のため灯火管制、夜間作業が行えず、復旧工作きわめて困難を加え、容易に進捗せず、重要工場に対しては、所在各部隊、工兵隊が出動する一方、鉄道補修工事も軍の出動により、軍需関係方面のみは、応急策が講じられた。当然、最も重要部門を担当する輸送動脈たる東海道においてすら、全通までに一カ月あまりを経過するの状態にあり。一般民家の復旧は、到底望むべくもなく被害地が軍需生産の中心地だけに、戦力増強、士気の高揚の上にも多大の憂慮すべきものがあるといえる。

(水谷鋼一・織田三乗『日本列島空襲戦災誌』より)

## 河合塾

直前講習 名大日本史テスト  
第2講 大問III 問4

問4 下線部③に関連して、次の史料は1945年1月13日に発生した三河地震を報じた新聞3社の見出しや記事であるが、これらの記事はすべて事実を過小評価した報道であったことが明らかにされている。なぜ新聞各紙は事実と異なる報道をしたと考えられるか、説明せよ。

「東海地方に地震 被害、最小限度に防止」(『朝日新聞』)

「中部地方に地震 旧暦七日(注1)の余震 重要施設の被害僅少」(『読売新聞』)

「十三日早晩一部電灯線が切断する程度の可成の地震が東海地方を襲ったが、旧暦七日の激震(注1)に較べると震度は遙かに小さく愛知県下三河部方面で若干全半壊の家屋があり死傷者を出しただけ(注2)で名古屋を中心とする尾張部と工場その他の重要施設には殆どこれという被害のないのは不幸中の幸いであった」

(『中部日本新聞』(注3))

(注) (1) 旧暦とは今年の臘月(12月をさす旧暦の称)で、ここでは前年12月7日に発生した駿河トラフと南海トラフ沿いを震源域とする東南海地震をさす。この東南海地震はマグニチュード7.9で、東海地域の多くの軍需工場などは壊滅的被害をうけたが、こうした事実も詳しくは報道されなかった。

(2) のちに、この三河地震での死者・行方不明者は2,306人であったことが明らかにされている。

(3) 第二次世界大戦中の新聞統合政策により『新愛知』と『名古屋新聞』が合併し1942年に発足。1965年に『中日新聞』と改題。